



コラム執筆者
篠山市原子力災害対策
検討委員
守田敏也さん

第2回 「放射能と安定ヨウ素剤」

福井県の原子力発電所でもし事故が起きた場合、篠山市にもその影響が及ぶ恐れがあります。ここでは、守田敏也さんによるコラムや、市の取り組みについて、その影響や放射能のこと、災害にどう備えるかをテーマに3回に分けて紹介します。

※原子力発電所の是非を問うものではありません。

問い合わせ 市民安全課 ☎552 - 1116

放射能とは、放射線という人体などに影響を与えるものを放射状に出す物質のことです。懐中電灯に例えると、本体が放射能、光が放射線ですが、放射線は光と違い少しの量でも身体に悪い影響を与え、多くの量では死をもたらしこともあります。そのため、放射線に当たらないことが大切です。放射線に当たると「外部被ばく」といい、身体の外側から放射線に当たる「外部被ばく」と、放射能を呼吸や飲食などで身体の中に入れてしまい、身体の内側から当たる「内部被ばく」に分けられます。

放射能はとても小さく見えませんが、何億も集まってガスや粒となっています。原発の中の核分裂でたくさん作られますが、事故などで施設に封じ込めることができなければ、風に乗って放射能の雲となって遠くまで運ばれてしまいます。

数多くの種類の放射能がありますが、現在私たちが対応できるのは、放射性ヨウ素だけです。放射性ヨウ素は、呼吸や飲食により体内に吸収されると、のどの甲状腺に蓄積され、がんなどの病気の原因となる可能性があります。これをできる限り防ぐには「安定ヨウ素剤」という薬をあらかじめ服用し、甲状腺を安定ヨウ素で満たすことが効果的です。ただし、安定ヨウ素剤の効果は24時間ですので、市からの服用の指示があつてから飲むことが



市で備蓄している安定ヨウ素剤

重要です。

服用量は、3歳以上13歳未満は丸剤を1丸、13歳以上は2丸です。多く飲んでも効果は変わりません。服用回数は1回のみです。

安定ヨウ素剤は比較的安全な薬ですが、ごくまれに副作用により発疹や下痢、嘔吐などが見られることもあります。ヨウ素過敏症、甲状腺の病気や腎臓に病気がある方は服用に注意が必要です。念のため主治医に相談してください。

篠山市では、原子力発電所の事故に備え、平成26年3月に安定ヨウ素剤を県下で初めて備蓄し、緊急時には職員が各自治会に持って行き配布することとなっています。また、原子力発電所に事故が起こった場合の対応方法や安定ヨウ素剤についての学習会を各自治会で開催していますので、参加して正しい知識を身につけておくことが重要です。

いずれにしても、原発事故が起こるとさまざまな種類の放射能のガスや粒による雲が飛んできて、放射線を出すのですから、雲が届く可能性のある地域では放射能雲が到達する前に「とっとと逃げる」ことが大切です。

ポイント

- 外側から放射線に当たる「外部被ばく」と、体内に取り込む「内部被ばく」がある
- 放射性ヨウ素による内部被ばくを避けるには「安定ヨウ素剤」の服用が効果的
- 安定ヨウ素剤の服用とあわせて、避難することが大切

篠山市の取り組み（原子力防災住民学習）

万が一の原子力発電所の事故に備え、安定ヨウ素剤5万人分を備蓄しています。また、原子力発電所の事故や安定ヨウ素剤についての学習会を12月末までに97の自治会で開催しました。3月末までには全体の半数以上の自治会で開催される予定です。ぜひ多くの自治会で取り組んでいただきたいと思いますので、詳しくはお問い合わせください。

